

(15) (月ぎめ購読料1,580円うち消費税117円)・一部売り(税込み)70円 <第3種郵便物認可>

# 田辺工業高が優秀賞

## 県人づくり研究発表

県内の工業高校が研究の成果などを発表する「わかやま産業を支える人づくり研究発表大会」が15日、和歌山市民会館で開かれた。田辺工業から5組が参加し、優秀賞に1組、審査員特別賞に2組が選ばれた。

県や県内の工業高校、企業関係者などをつくる「わかやま産業を支える人づくりネットワークワーク会議」と県高校教育研究会工業部会主催。

田辺工業など県内5工業高校の生徒約500人や企業関係者ら計約600人が参加し

た。5校22組が各ブースで制作過程などを企業関係者らに発表。企業や県、和歌山労働局、和歌山高専などの関係者が発表を聞いて審査した。

「国体カウントダウン表示装置」を作った田辺工業の組は、紀の国わかやま国体までの日数を表示する電光掲示板作成の手順などを説明した。

白浜町国体推進課から依頼されて作り、昨秋、町に寄贈。白浜町役場前で稼働している。

生徒はボスターや道具、部品を見せながら、丁寧に説明。審査員から、気を付けた点を

聞かれると「電動砥石(といし)で材料を切るとき、真つすぐ切断できるように心掛けた。また、材料にひずみが出ないよう、溶接を早く完了するようにした。溶接では目を守るためにゴーグルを着け、やけどしないよう注意した」などと答えた。3年の堀口広人君(18)は「緊張したが、うまく説明できた」と話した。

審査員は最優秀賞1組、優秀賞2組、審査員特別賞4組を選んだ。田辺工業からは「棒テンプ式機械時計の製作」を発表した組が優秀賞、

「接地抵抗基本特性の研究」「国体カウントダウン表示装置の製作」を発表した各組が審査員特別賞を受賞した。最優秀賞は和歌山工業の組だった。



「わかやま産業を支える人づくり研究発表大会」で、審査員を前に研究の成果などを説明する田辺工業高校生徒 (15日、和歌山市で)